

国際学会（会議）派遣支援制度 報告書

国際学会名	PME36	所属・氏名	広島大学大学院教育学研究科院生 早田 透
派遣期間	2012年7月18(8)日～7月25日 (ICME12(韓国)から継続して参加の為)	派遣場所	台湾台北市 National C.K.S. Memorial Hall / Wesley Girls High School
発表タイトル	A Study on the Ambiguity of 'Abstraction' in the Process of Generalization	記入日	2012年9月6日

学会参加報告

本年度の PME36 は台湾の台北市において、National Chiang Kai-shek Memorial Hall（開会式）ならびに Wesley Girls High School を会場として、5 日間に渡って開催された。本年度は 4 年に一度の ICME と重なる年であり、また様々な条件が重なったことも相まって、例年よりも比較的参加人数は少ない印象であった。本年度のテーマは「Opportunities to Learn in Mathematics Education」であった事から、特に Plenary Address においては地域差、人種差、性差、言語差などが広く話題となっており、我が国における同様の議論とは異なる様相を見せていた。

筆者は Poster Presentation という形で発表を行った。ポスターを掲示出来たのは発表時間として割り振られた 90 分間のみであり、また会場自体が極めて手狭であったために人の流動性が決してよかったとは言えないが、その分一人一人の方々とじっくりと長時間の議論を行う事が出来た。特に筆者は研究上西洋哲学を用いる事が多い一方で、我が国独自の哲学用語や考え方をそこに入れ込むような形で説明したため、西欧諸国に拠点を置いておられる諸氏から様々な点についての疑問を投げかけられ、議論することが出来た。中でも、筆者が中心的に用いていたある用語は、一対一対応で西欧言語に翻訳出来ないために伝わり辛く、その点が議論の中心となった。間接的に伝えようとしたことによって、筆者自身の考察が深まる切っ掛けを得たように思う。こうした言語的制約があるにも関わらず議論が実りある物となった大きな理由は、筆者がポスターに一つの簡単な事例を描いていたためであったと考えられる。双方がその事例に則しながら議論をしたために、極めて具体的に相互の考えている事が疎通できた事は大きなアドバンテージであった。筆者の発表に限った話ではないが、こうした場における「事例」の重要性が再確認されたといえよう。

最後に、Psychology と名の付く学会における私的な印象を一つだけ述べておきたい。筆者が拝聴した限りの科学的発表において、Vygotsky の名前を見聞する事は多々あったが、Piaget の名前を見聞する事はとうとう無かった。皆無というのは偶然かもしれないが、少なくとも嘗ての両者の比率が逆転している事は確かであろう。この点をどの様に捉えるかは難しいが、今が時代の潮目であるという象徴の一つであったように思われる。